

## 平成26年度 宇都宮市食育推進会議 会議録

■ 日 時 平成27年2月9日（月）午前10時から午前11時まで

■ 場 所 宇都宮市役所14階 14A会議室

### ■ 出席者

#### 1 委 員（17名）

大森玲子委員，齊藤さちこ委員，増渕一基委員，金田晋平委員，長谷川英一委員，  
小高渉委員，岩本眞砂枝委員，福田順一委員，杉浦朋子委員，金田淳委員，  
細谷タミ子委員，金枝右子委員，堀内英夫委員，亀井實委員，刑部郁夫委員，  
手塚敏子委員，青木浩子委員

※ 欠席委員（3名）：遠藤秀樹委員，見形繁委員，荒川昭子委員

#### 2 事務局（10名）

保健福祉部長，保健所長，保健福祉部次長（保健衛生担当），保健医療監，  
健康増進課長，健康増進課長補佐，健康増進課健康づくりグループ係長，  
学校健康課学校食育グループ係長，農業振興課農産物マーケティンググループ係長，  
健康増進課職員3名，学校健康課職員1名

■ 公開・非公開の別 公開

■ 傍聴者 なし

### ■ 会議経過

#### 1 開 会

- ・ 委員の過半数が出席しており，本会議は有効であることを報告
- ・ 「附属機関等の会議の公開に関する要領」に基づき，会議公開について説明，了承
- ・ 所定の手続きにて事前に周知したが，傍聴希望者はなし

#### 2 あいさつ（保健福祉部長）

#### 3 新委員の紹介

#### 4 議 事

「第2次宇都宮市食育推進計画」の中間評価と今後の事業の方向性について

## 5 委員からの主な意見・質問等（要旨）

### (1) 「第2次宇都宮市食育推進計画」構成事業の年次進捗状況について

#### <肥満の人の割合について>

##### ● 委員

- ・ 働く年代の肥満が高いことは問題だと思う。この年代が勤務する事業所への意識啓発の働きかけは大切であるが、それだけでは進まないと思う。

食育に取り組んでいる事業所等を表彰するとか、社員食堂・食材納入の卸業者等で、ヘルシーメニューや地産地消に取り組んでいる事業者になんらかのインセンティブを与えるなどして、広がりを持たせることが必要である。

##### ○ 事務局

- ・ 今回は中間評価であり、計画期間内に実施していくものや検討を重ねていくものなど、いろいろあるため、今後に向けて、検討していく。

#### <よく噛んで食べる人の割合について>

##### ● 委員

- ・ 中学校の学校歯科医という立場で、学校保健委員として給食を食べているが、給食の時間が短く、慌しい。もう少し時間の確保ができないものか。

自分も含め一般の人は、「時間がない」中で急いで食べており、よく噛んで食べることは難しくなる。

また、食材についても、ファーストフードなどは、よく噛まずに飲み込める物が多いので、このような問題は、考えていかなければ解決していかない。

##### ○ 事務局（教育委員会）

- ・ 今後、給食での食べる時間を十分に確保できるように検討していきたい。

#### <減塩の取組みについて>

##### ● 委員

- ・ 減塩について、長野県では、食生活改善推進員が塩分計を持って家庭訪問を行っている。私たちも、城山地区の220軒を家庭訪問し、みそ汁の塩分測定を行ったが、その結果、平均0.6%~0.8%と減塩だった。男性一人暮らしの方は、親族が脳梗塞で亡くなったため、気をつけており、塩分が0.37%だった。また、奥さんが旦那さんを気遣い、薄味にするなど、皆さんが、かなり減塩には気をつけていると思った。地域性があるかもしれない。自分たちばかりでなく、各団体の連携が大切なのではないか。連携すれば、栃木県も長寿日本一になれるのではないか。是非、団体の連携のもとよろしくお願ひしたい。

○ 事務局

- ・ 地域性という点について、食育に関する意識調査報告書の82ページをご覧ください。減塩の取組みについて地域別にとりまとめた一定のデータはある。地域で減塩の取組みがなされ、その結果、住民の意識改革がされてきている例もある。

減塩については、今後も全市的に取組んでいくが、地域によって、なぜばらつきがあるのか、食生活改善推進員の皆様など地域で活躍されている方々と連携を図るとともに、行政でも出前講座など地域に出向く事業を行う際には、地域の特色などに注意を払い、その状況を見て対応していきたい。

<朝ごはんについて>

● 委員

- ・ 食育に関する意識調査の結果では、高校生と20～30代が朝食を食べない理由として、「時間が無い」、「朝食を食べるより寝ていたい」とあるが、これは、睡眠時間との関わりがあるのではないか。また、「食欲がわからない」は、夕食の時間・食事内容・ストレスからくる食欲不振ではないか。これらの改善策として、企業の福利厚生事業の一環として食育関連の内容を盛り込んでもらえないか。

先日、テレビで、企業が健康を経営戦略の一つと捉え、積極的に朝食・肥満を問題視し、取組み、かなり成果を上げたという例が紹介されていた。

○ 事務局

- ・ 朝食の摂取と就寝時刻の関係については、食育に関する意識調査報告書の127ページをご覧ください。就寝時刻が遅くなると、朝食を毎日食べる傾向が少なくなる。特に、若い世代の生活スタイル・習慣も多いに関係している。こうした状況を踏まえ、地域・職域連携推進協議会等とともに一緒に考えていきたい。

<料理コンクールについて>

● 委員

- ・ 市の商工振興課で「ものづくり達人」として実施している、親子料理教室に、健康増進課職員も出向き、食育に関する話しをしてはどうか。

また、県が実施している「ヘルシーメニューコンクール」を、市も実施してはどうか。

○ 事務局

- ・ 是非、健康増進課としても食育の講座を連携してやっていきたい。また、コンクールについては、絵画・標語・お弁当のコンクールを実施している。地域や学校を通して、コンクールの周知を行い、子どもから大人まで応募いただいている。コンクールの優秀成績者は食育フェアで表彰を行っている。

「取り組んでいる」、「やっていただいている」だけでなく、輪を広げ、高い情報発信に、今後とも取り組んでいきたい。

#### <高校生の食育の関心度について>

##### ● 委員

- ・ 今は、保育園・幼稚園・小・中学校までほとんど完全給食になっており、他の人に作ってもらった物を食べている。高校生になってからお弁当になるが、自分の食に関心がないまま、社会人になっている。20代は成人病の発症は少ないため、健康に過信している。幼い頃から、食は他人まかせになっている。

イベント食（餅つき、芋ほり等）では、保健衛生的に安全面からプレッシャーがあり、保護者は、手作りのものではなく、業者が調理したものを仕入れて販売するなど、手作りの意識が少ない。

高校卒業するまでの間に、本当の食事は何か、自ら考えられるよう、毎日の食事から、給食も新しい発想で見直す必要があるのではないかと。

##### ○ 事務局（教育委員会）

- ・ 高校生になるに当たり、小・中学校のうちから、お弁当の日の取組みを行い、学年に応じて、自分で作ったり、作ってもらった事に対する感謝の気持ちの醸成などに取り組んでいるところであり、今後もこの取組みを引き続き実施していきたい。

#### <学校給食について>

##### ● 委員

- ・ 保護者代表の意見として、給食での食の取組みは、20、30年前に比べると非常に素晴らしいと思う。給食は昼食のみなので、メタボリックシンドロームなどは夕食が問題なのではないかと思う。給食でしっかりしたものを食べており、家庭でも、添加物など食の安全性なども含め、教えていく必要がある。学校の栄養士さんには、真剣に取り組んでいただいている。

##### ● 委員

- ・ これから大人になっていく子どもたちのことを一番に考えるべきである。小さいうちから、無意識のうちに意識が根付くような食育をしていくことが必要だと思う。

#### <高齢期の食育について>

##### ● 委員

- ・ 高齢者でも、食事に気をつけている人と気をつけていない人がいる。高齢者にも、食事に気をつけるよう、やさしい言葉で、声かけをするなどがあるとよいと思う。

## 6 その他

いただいた意見を事務局にて整理し、大森会長に確認のうえ、今後の事業の方向性に反映する。

## 7 閉会